

定住自立圏取組の進捗状況(R01.9月末)

【参考資料3-1】

No.	事業名	担当課	事業概要	圏内進捗状況 (R01.9月末時点)	H31事業費 (町負担分) 単位:千円	①連携事業に対し、 町として求める成果	②町が享受できた 具体的な成果(R01.9月末現在)	③今後の課題	④進捗評価
1	子育て応援 カード事業	子ども教育課	子育て家庭を応援し、安心して子どもを産み育てることができるまちづくりをめざし、中学3年生までの子どもを養育している世帯を対象に、協賛する店舗等で提供する割引や特典等のサービスを受けることができる「子育て応援カード」の利用者及び協賛店等の拡大を図る。	新発田市、胎内市は平成30年9月1日から事業を開始(共通カードの作成費用が約160万円を要す。) ○新発田市 ○胎内市		3市町の協賛企業の割引や特典等を、圏内で共有できることで、町内子育て世帯の経済負担の軽減に寄与。	—	新潟市・田上町・聖籠町の3市町で同種の事業である「子育て応援パスポート」の連携事業をH31.4月から実施。子育て世帯へのサービス向上のため、定住自立圏である新発田市・胎内市との連携に向けて検討を行う。	D
2	赤ちゃん駅整備、マップ作成事業	子ども教育課	安心して子どもを産み育てることができる環境の整備を進めるため、オムツ交換台や授乳スペースを備えた「赤ちゃんの駅」の整備を進め、圏域全体に普及していき、子どもを連れて外出した際の不便を解消する。また、子育て応援マップを作成し、施設等利用者の拡大を図る。	当初の予定ではパンフレットを作成する予定であったが、各自治体の費用負担軽減のため、ホームページへの掲載とすることで合意したが、新発田市の担当者が異動で交代したことから、事業は一切実施していない。		3市町の圏域内における施設を共有できることで、町内子育て世帯の買物・レジャー等の外出時におけるおむつ交換等の施設使用が容易になる等の便宜が図られ、子育て負担の軽減にもつながる。	—	事業の着手	D
3	在宅医療・介護連携推進事業	保健福祉課	医療と介護の両方を必要とする高齢者の在胎区医療と介護の一体的なサービス提供を連携して実施する。また、事業を実施するための組織運営や、事業に係る会議や調整等を行う。	○新発田地域在宅医療・介護連携推進センター設定(H30.4から) ○住民向けフォーラム開催(4月)※於:胎内市内 ○ロジックモデルを活用した多職種連携研修会開催(6月)※各市町で開催 ○ロジックモデル作成ワーキング実施(8月・9月) ○看取り研修会開催(8月・9月)	2,998	圏内の医療と介護の連携が強化され、在宅医療と介護の両方を必要とする住民が、在宅で切れ目のないサービスを受けることができるようになること。	○新発田地域在宅医療・介護連携推進センター設定(H30.4から) 相談件数:22件(うち聖籠町1件) ○住民向けフォーラム開催(4月) ※於:胎内市内 参加者数:262人(うち聖籠町6人) ○ロジックモデルを活用した多職種連携研修会開催(6月)於:町保健福祉センター 参加者数:48人 ○ロジックモデル作成ワーキング実施(8月・9月)於:町保健福祉センター 参加者:延べ44人 ○看取り研修会開催(8月・9月) 於:新発田市内 参加者:延べ69人(うち聖籠町2人)	○医療・介護関係者向けの多職種連携研修会への町内事業所からの参加者の増加と、関係者が現状・課題の把握、目的・目標を共有すること。 ○在宅での療養・介護に対応する医療機関と介護事業所の充実。 ○町民の在宅での療養等に関する理解を深めるための啓発活動。	A
4	図書館相互利用推進事業	図書館	各市町が設置する公立図書館において、圏域内の住民へ図書館の資料の閲覧及び図書館資料の個人貸出を行うことによって、利用者の利便性の向上を図る。	○平成29年4月1日～ 新発田市・胎内市との相互利用を実施		各市町相互の住民に対し、図書館の資料の閲覧及び図書館資料の個人貸出を行うことによって、利用者の利便性の向上を図る。	R01.7月末時点 ○令和元年度新規登録者数 【各図書館での市民の登録状況】 ・新発田市立中央図書館…26名・胎内市図書館…1名 【聖籠町立図書館での市民の登録状況】 ・新発田市民…44名・胎内市民…15名 ○令和元年度貸出者数 【各図書館での市民の利用状況】 ・新発田市立中央図書館…437名・胎内市図書館…1名 【聖籠町立図書館での市民の利用状況】 ・新発田市民…2,673名・胎内市民…330名 定住自立圏の取りまとめをしている新発田市から8月以降のデータが届いていないため。	町民への周知。	A
5	新発田市、胎内市、聖籠町 広域観光圏 づくり推進事業	産業観光課	首都圏、関西圏、海外に向けた観光PRや誘客活動の強化を図る。また、圏域を回遊する観光ルートの策定や観光客等への地域産品の販売促進を強化し、圏域への誘客の増加を図る。	○韓国旅行会社へのトップセールス実施 ○広域観光周遊ルート内の観光地等PR動画の撮影	400	聖籠町を回遊する観光周遊ルートを策定し、当町への誘客数の増加	○韓国旅行社へのトップセールス ○広域周遊ルート内の観光地等PR動画の撮影(町内撮影箇所→さくらんぼ、ぶどう、二宮家バラ園、夏まつり、マリンフェスタ、東港釣り場)	PR事業を聖籠町の観光資源(果樹)のシーズンにできなかったため、旬の情報を観光客に提供するという点でインパクトが弱い。他市町との連携事業ではあるが、最大限のメリットを引き出せるよう、更なる協議・連携が必要。	B
6	広域連携農産物等販売促進事業	産業観光課	農業の生産基盤や販売体制の強化を図るため、各市町で開催するイベントにおいて、圏域内の地域の特色を活かして生産された農産物等のPRや販売等を行うことにより、広域圏での新鮮で安心・安全な地域農産物等の消費拡大を図る。	北越後大農業まつりをはじめ、各市町の収穫祭に「定住自立圏広域連携事業 農産物・特産品販売ブース」として各市町から出店し、生産される農産物等を販売。 ○10/27 胎内いいもんまつり ○11/3 聖籠秋まつり ○11/23 北越後大農業まつり		各イベントにおいて、本町の農産物をPR販売。町農産物の知名度アップにつながる。	各イベントにおいて、本町の農産物をPR販売。時期的に出せる農産物が限られたが、ある程度は町農産物の知名度アップにつながった。	時期的に根菜類が多く、農産物等の重複が目立った。重複を避けるための販売品目の調整や時期を問わない加工品の出品などの検討が必要。	B

定住自立圏取組の進捗状況(R01.9月末)

【参考資料3-1】

No.	事業名	担当課	事業概要	圏内進捗状況 (R01.9月末時点)	H31事業費 (町負担分) 単位:千円	①連携事業に対し、 町として求める成果	②町が享受できた 具体的な成果(R01.9月末現在)	③今後の課題	④進捗評価
7	圏域就職支援事業	産業観光課	圏域内の高校生や大学生を対象に、圏域内企業へのインターンシップを実施し、新発田市、胎内市、聖籠町に所在する圏域内企業への安定した雇用を確保し、高校生や大学生の圏域内就業率の向上を図る。	今年度実施未定	30	高校生や大学生に町内企業をPRし、就職率の向上につなげたい。	平成30年度実績 インターンシップ参加企業106社、参加者251名、町内参加企業:2社 ○町内受入企業:0社 ○町内参加者:2名	町内企業及び参加者増加に向けての情報提供を企業や学校に行う	C
8	無料法律相談事業	保健福祉課	新発田市、胎内市、聖籠町の各自治体で実施する無料弁護士相談において、圏域内の住民が、いずれの無料弁護士相談も利用できるように、利便性の向上を図る。	各市町で実施する無料法律相談の一部を、圏内の各市町の住民も利用できるようにしている。	407	聖籠町民が相談を必要とするときに、他市事業を活用して相談することができる。	聖籠町での相談件数 21件 うち 聖籠町民 13件 新発田市民 7件 胎内市民 1件 他市での聖籠町民の相談件数 2件	○聖籠町民からの相談件数が少ないため、事業の周知と、圏域内での相互利用が可能であることの周知を定期的に行う必要がある。 ○聖籠町での相談件数21件中、他市民利用が7件あり、このスキームでの本町のメリットは小さい。このため、他市との事業費負担の観点から合理性のある負担のあり方を協議する必要がある。 ※現在協議中。	B
9	公共交通連携事業	生活環境課	各地域における生活圏に応じた移動手段の確保と利便性の向上を図るため、圏域内の既存の路線バスの運行内容等を検証し、地域に応じた公共交通の導入や接続に係る利用環境を整備することで、公共交通網の再編を進め、持続可能な公共交通体系を構築する。	H30.10に検討会を開催して以来、進展なし。	-	新潟交通が運行する路線バスが廃止された場合、町から新発田市への通勤・通学・通院について支障が出ないよう、それぞれの地域公共交通がスムーズに連結する、または圏域での新たな公共交通体系の構築を検討する。	-	まだ町の公共交通の体形が定まっていないため、連携の検討ができていない。	D
10	高速バス関連管理・整備事業	ふるさと整備課	日本海東北自動車道の整備延伸や国道113号の整備による高速バスの利用において、住民の生活の利便性の向上を図るとともに、安全なバスストップを確保するための維持管理を行う。	現行路線維持のための間接的誘因であるバスストップ及び関連施設の維持管理を行っている。	26	新発田市と連携することにより、効率的に関連施設の維持管理ができ、経費削減を図る。	新発田市と経費を折半することで、効率的に関連施設の維持管理を実施できた。(R1実績 事業費50,584円×1/2)	引き続き関連施設の維持管理に努めるとともに、利用促進を図るため、圏域を超えた県との連携についての検討も必要。	A
11	市道念仏塚、町道寺島網代浜線整備事業	ふるさと整備課	新発田市と聖籠町を結ぶ幹線道路脇に歩道を整備し、圏域の多くの高齢者や学生の通院、通学、買い物など、生活機能に必要な安全な交通路を確保する。 圏域住民の生活に必要な交通路を交流促進を図るため、道路等の交通インフラの整備を行う。 歩道整備(施工延長1,400m、歩道幅員2.5m、橋梁1橋、測量調査)	-	0	新発田市と連携することにより、町民の生活に必要な交通網の整備が図られ、町民サービスの向上を図る。	-	新発田市の整備計画と時期を合わせた、計画的な事業実施を検討する。	D
12	まちづくり活動支援事業	総務課	地域づくりの担い手として期待される市民やNPO、市民活動団体などの団体間の連携強化や、活動の様々な課題を解決するため、大型商業施設等を利用した共同のPRイベントを開催するなど、団体等への活動支援を行う。	○全体会議・実行委員会・交流会実施(8~2月の間に8回程度実施予定) ○R1.9.7 長岡市民活動フェスタ視察研修 ○R2.2.24 3市町合同でイオンモール新発田にて「まちづくりフェスタ」を開催予定。 活動紹介・発表、販売・体験ブース、パネル展示実施に向け、準備を進めている。 (町参加団体:1団体(JSC))	0	○町内活動団体の活動PRの場の創出 ○他団体との交流による活動に対するモチベーションの向上及び情報収集の促進	参加団体の会議回数を増やしたことにより、例年以上に参加団体同士が顔を合わせ、同一のイベントについて協議する交流の機会が生まれている。 また今年度から実行委員会形式にしたことで、参加団体の中の責任感が高まり、「自分たちのイベント」という連帯感が生じている。	例年、本町のまちづくり団体の参加が少ないため、今年は参加団体募集方法を変更。町が把握する該当団体全てに直接案内を送り募集をかけたが、昨年同様1団体の参加にとどまった。 イベントの実施時期、内容、場所等の見直しを検討する。	B

定住自立圏取組の進捗状況(R01.9月末)

【参考資料3-1】

No.	事業名	担当課	事業概要	圏内進捗状況 (R01.9月末時点)	H31事業費 (町負担分) 単位:千円	①連携事業に対し、 町として求める成果	②町が享受できた 具体的な成果(R01.9月末現在)	③今後の課題	④進捗評価
13	加治川を活用した交流拠点形成事業	総務課	新発田地域の農業や生活を支えてきた「加治川治水事業」の歴史や水害などの記憶を、風化させず後世に伝えるとともに、加治川の桜並木をはじめとする地域資源を活用しつつ、今後の地域発展につなげることをめざし、圏域内外に、治水・利水行政の重要性や地域の自然・文化を広く伝えていく。また、環境整備等の検討を行う。	-	0	-	-	今後の当事業の方向性について、再度各市町の意向確認が必要。	E
14	総合型地域スポーツクラブ連携事業	社会教育課	新発田市、胎内市、聖籠町が所有する大型体育施設の管理を行う認定NPO法人等が連携し、高い管理能力と技術により、良好な施設状態を維持していくための研修会や情報交換会を開催する。	○昨年度3市町担当者による打合せ会議を実施した。事業内容の検討及び必要性について情報交換をし、行政担当でなく、NPO法人と合同の会議を開催し、意見交換を行うことを協議した。	0	体育施設の維持管理に関するノウハウの収集		H30.6月、3市町の行政担当者で情報交換会を開催。 体育施設の管理形態が各市町によって異なるなか、有意義な情報交換会とするための会議の議題設定等が課題。	C
15	各スポーツ大会等の合同開催	社会教育課	新発田市、胎内市、聖籠町で同時期に同様の目的で開催されているスポーツイベント等の合同開催を実施する。	○昨年度3市町担当者による打合せ会議を実施し、その中で各市町のスポーツ推進委員による「障がい者スポーツ実技研修会及び情報交換会」を計画し、3月に開催した。 ○今年度も同様の研修会を実施予定。	0	町スポーツ推進委員及び職員の障がい者スポーツへの理解度が深まり、また他市の現状や取り組みを理解することで、今後の連携して出来る事などを話し合うきっかけとなること。	合同研修を行うことで、スポーツ推進委員の問題意識が向上した。また、情報交換を行うことで、相互で問題を共有でき、親睦が深まった。	平成30年度の打合せ結果から合同研修会を引き続き実施する。	A
16	婚活支援事業	総務課	3市町が連携し、結婚を希望する人が理想とする結婚生活や家庭生活を見つけてもらうためのライフデザインセミナーや、婚活イベント、イベント参加者への結婚サポート(アフターフォロー)実施して、出会う前から理想とする結婚の希望をかなえるための切れ目のない一連の支援に取り組む。	○婚活支援事業 出会いイベント(計4回) ・新発田市:2回(7・12月(予定)) ・胎内市:1回(9月) ・聖籠町:1回(10月(予定)) ○大規模ライフデザインセミナー ○無料相談会開催(計8回) ○「ハートマッチにいがた」の臨時窓口開設(計8回) ・相談会とハートマッチは7月～2月まで 毎月第1または第2日曜日に各市町(新発田市6回、胎内市1回、聖籠町1回)で実施 ○10月 第8回ワーキング部会(予定)	130	広域で取り組むことにより、町が単独で実施するよりも効率的に婚活事業を実施すること。	少ないながらも町からの参加者を獲得することができた。 婚活支援事業の成果は、具体的な数字に表れづらく、長期的に取り組む必要があることから、今後の成果に期待したい。	全体として参加者は多く、カップリング率も高いが、町からの参加者が非常に少ない。 今後は、人が集まる施設にポスター設置の依頼や町内企業への営業を行うなどして事業の周知を図っていきたい。	C
17	職員研修共同実施事業	総務課	新発田市、胎内市、聖籠町が実施する研修等において、圏域職員にとって有益で必要性の高いものについては、合同研修会を実施する。また、必要に応じて共同企画による合同研修を開催する。	○職員研修会を連携市町にて合同で開催 【H30年度】 ・8/2～8/3 OJT研修 受講職員105名(新発94名、胎内10名、聖1名) ・10/23 新規採用職員後期研修 受講職員37名(新発23名、胎内11名、聖3名) 【R元年度】 ・7/2.3、8/6.7政策形成能力向上セミナー2コース 受講職員140名(新発36名、胎内2名、聖籠2名) ・7/25働きやすい職場づくり研修 受講職員78名(新発78名、胎内6名、聖籠2名) ・10/25新規採用職員研修(予定) ・10/25チーム力向上研修(予定)	10	職員の研修機会の確保	【H30年度】 8月OJT研修 1名参加 10月新規採用研修 3名参加 【R1年度】 7月働きやすい職場づくり研修2名参加 7月.8月政策形成能力向上セミナー1名参加 10月新規採用職員研修1名参加予定	新潟県市町村総合事務組合が実施する以外のものとして、研修機会の確保ができています。	B
18	男女共同参画推進事業	総務課	男女共同参画社会の実現に向けて、圏域内の自治体との連携により、住民への啓発を行うための講演会等の開催や、リーフレット作成に取り組む。	○映画上映会&ミニ講演会の開催 日時:6月30日(日)午後1時30分～午後4時 映画タイトル:「彼らが本気で編むときは、」 講師:虎岩朋加(敬和学園大学准教授) 会場:新発田市生涯学習センター 参加者数:107名 ○中小企業のための働き方改革セミナー(予定) 日時:2月18日(火)午後1時30分～午後3時30分 内容:講演会、制度解説、情報交換会 会場:イクネスしばた 参加者数:50名	0	町が単独で実施するよりも広域で取り組むことにより、効率的に実施すること。	町の財政負担なく、講演会の開催やリーフレットの作成を行うことができた。 ○講演会について 当町からは12人の参加者があった。(アンケート回収77人) ○リーフレットについて 作成部数25000部のうち、当町分は4000部。各施設に配置している	○啓発事業を行う際に、若い世代の参加者が少ないため、工夫が必要。 ○啓発リーフレットについて、若い世代にも見られるように工夫が必要。	B